

劇あそび

公益社団法人 日本児童青少年演劇協会
「劇あそび勉強会」
〒102-0085 東京都千代田区六番町 13-4 浅松ビル 2A
TEL03-5212-4771 FAX03-5212-4772 事務局
E-mail: jidogeki@jcyta.or.jp
編集・発行 加藤早恵

復刊 N o. 217 (2024年 11月) 題字 蓪田正治

劇あそび勉強会 2024年10月19日 記録

参加者：尾根秀樹 加藤早恵 菊池里枝 遠山欣子 林久博 松下有希 山田佳奈子 八木美恵子
(計8名)

夏季講習会ダイジェスト 劇あそびで発表会

発表者 尾根秀樹さん

第55回幼児の劇あそび夏季講習会は、東京オリンピックセンターで8月に開催しました。『実技講座④劇あそびで発表会』では「発表会って悩ましい！でも、日常保育の中で楽しんだこと劇あそびを、発表会でやってしまったらどうかしら？」という提案をしました。そして劇あそびの楽しさ、面白さは子どもたちの育っていく姿にも影響するよ！と投げかけていく試みも…（この講座では加藤も分担していましたので、ここまでは私的な報告です）。

さて、洗足こども短期大学で専任講師をしている尾根秀樹さん。お若い時よりこの会に頻繁に顔を出し、今や中心的な存在。そして、故藍田正治先生に、「劇あそびのすばらしさを、若い世代の人たちに伝えて広めなさい」と言われたことを胸に刻み、今、若い保育者になろうとしている人たちと日々格闘？している方です。

ここでは数ある実践の中から絵本『くもきちせんせい』深見春夫さく・え（PHP研究所）で、子どもたちと楽しんだ実践を報告しました。

実際に、参加者が話し合いながら、『泣いているともだち』をどうにか喜ばせようという場面を作っています。子どもたちが実際に作りながら楽しんでいた様子も伺えて、終わりに尾根さんから以下のポイントがこの『あそび』にはあるとのお話も。

- ・子どもたちが大好きな絵本である。
- ・劇ではなく、絵本に出てくるような場面を遊んだり、保育者や子どもたち自身で場面を決めたりするなど、多様な遊びができる。
- ・子どもたちが自由な発想であそびを作り、話し合うということを経験することができる。
- ・子どもの成長のチャンスを見逃さない！ということも劇あそびの力です。

この記録には膨大すぎて記せない『主体的とは？』ということについて、参加者からたくさんの方々の意見がありました。

（これは「合宿などでやらないとな～」と思うほど熱さでしたよ！）



夏季講習会ダイジェスト 絵本からの劇あそび

発表者 菊池里枝さん
(八木美恵子さん)

講座で手元資料として配布したものを見ながら（読みながら）、実際にいくつかの絵本からの劇あそびを参加者みんなで楽しみました（劇あそび公式LINEにチラ見せ配信もされています！）。

この日は同じく講座の講師をした八木さんも登場。当日の様子なども伺いながらの中身の濃い報告と

なりました。

絵本を題材に取り上げていますので、視覚的な支えはバッチリなのですが、さらに物や絵などであそびを盛り上げていく、お二人の手法というか手腕には脱帽です。みんなで一つのイメージで遊ぶのだけれど、ひとりひとりにもキチンとスポットライトが当たり、自分が楽しい、みんなも楽しい！という活動がてんこ盛りでした。そのうちの何冊かの絵本を題材にしての活動をお伝えします。

☆絵本『おじさんのつえ』五味太郎さく・え（岩崎書店）

新聞紙をアイテムに、絵本の通りに杖（新聞紙）をいろいろ変身させてみたりまた、新たなオリジナルアイテムを考えて、それを、菊池さんが絵ですぐに示してくれて（視覚支援！）、自分のアイデアをみんなが楽しく表現してくれ、その場面が全部お話につながっていくというスペシャルなあそび！



☆絵本『めがねうさぎの うみぼうずがでる』せなけいこ さく・え（ポプラ社）

ゲームあそびくきこりとりすゝを、鬼ごっこ×劇あそびのバージョンにして楽しむというもの。参加者からは「ゲームをおろすのに、絵本が有効ってすごい発見です！」という喜びのコメントも。



菊池さんは現在板橋区の児童館の先生。八木さんはフリーで劇あそび・ロボットあそび？の場で活躍中。お二人とも、幼稚園や保育園での経験も長く、ここで発表されたあそびの数々には、実践の強みと温かい子どもたちへのまなざしがあります。

「誰かのために、なにかをやってあげる」「みんなでね。という気持ちが温かい」というコメントもありました。

新聞紙という何気ない素材（アイテム）が子どもたちの想像力、発想力を引き出し、伝え合う意欲とうれしさを体験できる。

「あなたはすごいね」と言ってもらえる、「わたしつつすごいんだ！」と感じることができます。そんな劇あそびって、本当にすごい！と思いました。

毎回思うのですが、劇あそびの実践報告を通して、子どもたちの成長などを感じる以上に、そこにいる、おとな（保育者）のを感じます。保育の中で見て取った子どもの様子や、伸びていこうとするその瞬間などに向き合い、そこで得たものを保育に生かすことができる、質と意識の高い保育力を持つ大人の存在を感じます。だからこそ、劇あそびは子どもたちの力を引き出し、育んでいくだけではなく、我々おとな（保育者）の力をも引き上げてくれるものだと思うのです。

是非、これからも劇あそびというものを一緒に学んでいきましょう。

（文責 加藤早恵）

次回の劇あそび勉強会は…

◆期日 11月16日(土) 18時～20時15分

◆参加費 500円

◆場所 東京 YMCA 山手コミュニティーセンター 204教室（2階）

（新宿区西早稲田2-18-12）

最寄駅 JR・東西線・西武新宿線：高田馬場駅 徒歩7分 都電荒川線：面影橋 徒歩7分
副都心線：西早稲田駅 徒歩3分

◆内 容

*～講習会ダイジェスト～ 実技講座③『音楽あそびで劇あそび』

発表者 大場美保さん 松下有希さん
脚本提出 蒜田敏雄さん

*保育者が演じて見せる劇 実習